



いきいき！ニュースレター 3月号



三ツ星治療院のモットー「必ず良くする」とは？

三ツ星治療院はモットーとして、患者さんを「必ず良くする」を掲げています。それは、補完代替医療として、使命を持って施術にあたる決意でもあります。

しかし、「必ず良くする」は、少し強い言葉なので、誤解を与えかねないという危惧もあります。というのは、必ず良くすることを優先するあまり、「強く押されるのではないか」、「自分が望む以上の回復を強制されそう」などのマイナスの印象を抱かれる方がいるかもしれないと思うからです。

実際にそのような指摘はまだ受けたことはありませんが、患者さんの中にはマッサージを受けるにあたって強く押されたり、自分のペースを乱されるのではないかと、という不安を持たれた経験がある方も多くいらっしゃいました。

患者さんには生活に根付く希望がありますので、それに繋がる施術をするのが大切です。決して「もっと良くなりそうだ」とこちらの欲を押し付けてはいけません。もっと良くしてあげれば、患者さんにとっても良いはずだ、という思い込みは決して患者さんのためになりません。

例えば、90歳を超えた高齢の患者さんの希望は、「痛みをとって、歩行器を使ってトイレに行ける。食事を座って一人で食べられること」でした。マッサージによって痛みがなくなったことで、日常生活が改善され、希望はほぼ叶いました。それ以上のことも出来そうですが、希望がかなったことで患者さんは十分満足されています。

また、患者さんの希望は、状態によって変化していきます。それを常に把握することも大事です。

むくみがひどかった患者さんは、「むくみを治したい」という希望を強くお持ちでした。マッサージによってかなりむくみが改善されたころ、患者さんの希望は「もう少し動けるようになりたい」に変わりました。

希望をかなえるために通所リハビリにも通うようになりました。

すると、動く事で疲れがでるので「疲労を取りたい」という希望が出てきました。



重い認知症などで意思疎通が難しい患者さんでも、意思の把握の工夫はできます。

認知症で寝たきりの患者さんは、希望を話す事はできませんが、関節拘縮や褥瘡があり、そのためのマッサージを行っています。

関節が動きやすく、手足が開きやすくなると、その患者さんは機嫌がよくなり穏やかになります。

他にも顔色も血色が良くなる、深呼吸する、あくびがでる、などで感情を読み取ることが出来ます。

「必ず良くする」はモットーとして大切だと考えています。

定期的に訪れ、患者さんと気心もしれるようになると、施術がルーティーン化してしまう恐れも多分にあります。

意思が行動を作る、という面も大いにあると思いますので、責任感を持って施術に臨むために「必ず良くする」と強い言葉で言い切るのには大切だと考えています。

ただ、独りよがりにならないよう、患者さんの希望を細やかな心遣いで読み取ることなしには、「必ず良くする」も成り立たないと感じています。

書籍紹介・「身近な人が脳卒中で倒れた後の全生活術」



ある日突然、身近な人が脳卒中で倒れてしまったら・・・。

この本はバリバリの外資系コンサルティング会社の社員だったご主人が、脳卒中に見舞われた奥様と闘病生活を送ることで感じた事柄について描いています。発症から、入院、転院、在宅での生活について、「お金」「公的支援」「メンタルケア」など、悩んだり知りたかったりしたポイントを詳しく載せた本となっています。

訪問マッサージの仕事をしていると、患者さんからいろいろな質問を受ける機会が多いのですが、お付き合いが長くなるにつれてマッサージに関係する事以外の質問も増えていきます。

最近では、「犬の調子が良くないみたいだけど、動物病院に連れていった方が良さだろうか？」という質問を受けました。(便秘だったようで、病院に行く事なく元気

になりました。)

そんなこともあって、本業とは関係ない事柄でも、できるだけアンテナを張っておくようにしています。患者さんに「知りません」というのは簡単ですが、言い方次第で患者さんは心を閉ざしてしまいます。どんなことでも質問しやすい関係を作ることで、患者さんが安心して在宅での生活を送れるように、と思っています。

そういった理由もあり、当事者ならではの悩みや問題を知りたいと思いこの本を手に取りました。

この本には耳の痛い指摘が載っています。

医療関係者や介護従事者が、教えてほしいことを伝えてくれない事例があったことや、不勉強であったり、仕事の質に疑問があったりする場合もある、ということが書かれています。

訪問マッサージのことはこの本には書かれていませんが、上記はまさに訪問マッサージで言われる問題と同じだと思い、重ね合わせて読みました。

また「利用者さん」という言葉に違和感があるという、当事者ならではの感覚も紹介されていました。

利用者さんには、「利用させてあげている」という上から目線が感じられるとのこと。

介護サービスを受ける身として感謝していて、言葉に深い意味がないのも分かっているが、NTT がかつて「加入者」と呼び、JR が「利用者」と呼んだのを改めたように、そろそろ変えた方がいいのでは、と書かれています。

正直に言いますと、私は「利用者さん」がその様に響くことに今まで思い至りませんでした。

長く介護業界に関わってきたためか、一般的な呼び名のような感覚で慣れてしまっていました。

その慣れの感覚が、当事者である患者さんやご家族と、医療・介護従事者とのすれ違いや誤解を生みかねないことを改めて学びました。

この本は、2016年7月に発行された新しい本です。

その為治療法に関して、新しい情報が載せられています。

「磁気刺激療法(TMS治療)」は私が不勉強のためか今回初めて知りました。

磁気によって大脳を刺激して、大脳の神経活動性を変化させる治療法だそうです。

しかし、適応基準があり、脳卒中後遺症をかかえた全ての患者さんに行える治療ではないこと、新しい療法で取り扱っている病院が少ない事などもあり、今の所は誰もが使える療法ではないように感じました。

慈恵医大では「TMSと集中的リハビリテーションの併用療法」を導入し、こちらは入院が必要でお値段も張りますが、治療法選択のうちの1つとなるかもしれません。

(「身近な人が脳卒中で倒れた後の全生活術」待島 克史(著) 落合 卓(監修) 時事通信社 より)

★三ツ星治療院です★

お気軽にご相談ください。メールでのご連絡も大歓迎です。

TEL : 070-5020-6164

メール : m3204@y-mobile.ne.jp